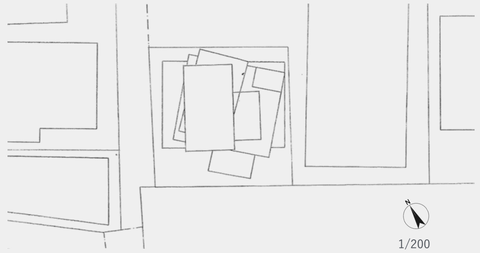
結末によりそう家。
ー 変化する居場所 ー

本にも、私たちの日々にも
バッドエンドやハッピーエンドがある
部屋の用途を人で決めるのではなく
人がその瞬間の心に合わせて決める
そうすることで、
本と日々の結末によりそう空間を提供する

これからの住まいは、国内産業の活性化や、画一的な量産型住宅ではない、多様性のある住まいづくりが重要である。
そこで、国産材の格子棚壁を規格化することで施工や普及を容易にし、輸送エネルギーを抑える。
また、空間が人によりそう住まいは、心にゆとりができ、人は人によりそえるようになる。外からの優しさや刺激を受け入れ、内からのあたたかさを地域や社会に送り出す「循環のハブ」となる。
この住まいは、環境にも人にも優しい連鎖を巡らせる。

ー 配置図兼屋根伏図 ー



新宿の高層ビル群から少し外れた住宅街にある。傾斜の多い地形で、高台に敷地と公園が存在している。公園側は開ていて、見晴らしが良い。

ー 敷地 ー

ー 建築概要 ー

所在地：渋谷区代々木4丁目3-16
用途地域：第2種低層住居専用地域準防火地域
建築面積：76.435㎡
建ぺい率：58.63%
延べ床面積：122.435m
容積率：93.92%
建物高さ：12m
構造種別：木造

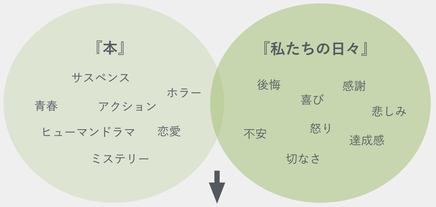
ー クライアント ー

父：図書館司書（55歳）
ミステリー、ホラーの本が好き。観葉植物を育てている。

母：児童館職員（53歳）
仕事の影響で絵本が好きになった。趣味は家事。

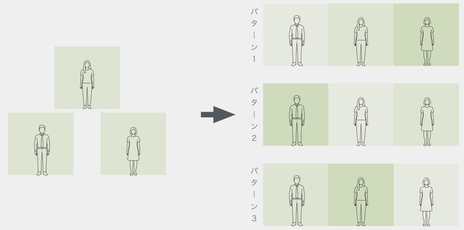
娘：大学生（22歳）
インドア。内気な性格。寝ることが好きで趣味。

ー コンセプトⅠ 本と日々の共通点 ー



本にも、私たちの日々にも、バッドエンド・ハッピーエンドがある。
それぞれの瞬間に浸り、どんな結末も大切にしたい。

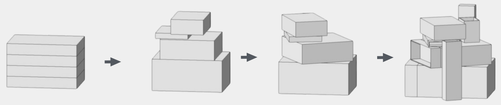
ー コンセプトⅡ 部屋を選ぶ ー



部屋を人ではなく、その瞬間の心に合わせて決める。

ー 設計プロセスⅠ 本の輝きと暗がり ー

サイズ・角度・向きに凹凸をつけることで生まれた明暗は、
「本を開く輝き」と「本を閉じる暗がり」を表現することを目指している。



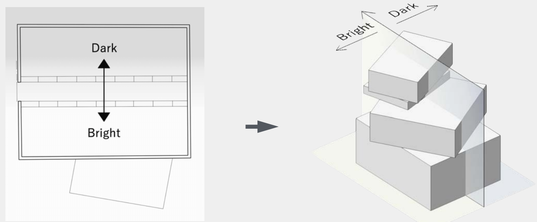
同じ種類の本が
同じ向き、同じ位置
で重なる

違う種類の本が
同じ向き、異なる位置
で重なる

違う種類の本が
異なる向き、異なる位置
で重なる

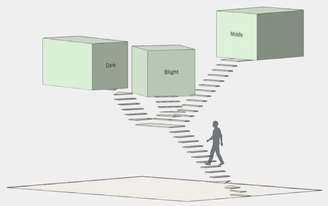
違う種類の本が異なる向き、
異なる位置で重なり
明暗のグラデーションを加える

ー 設計プロセスⅡ 閉と開のグラデーション ー



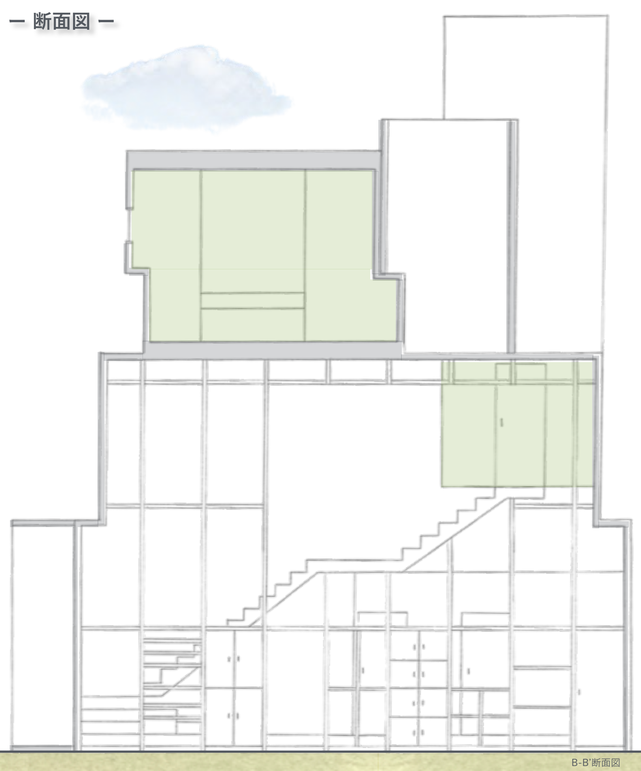
「暗く閉鎖的な空間」と「明るく開放的な空間」を内装・外装、共に北側から南側にグラテーションになるように構成。中間地点として、寝室を睡眠というリセットの場とし、下の2つのボックスと分離させその日1日の思いを今日に閉じ込める空間とした。

ー 設計プロセスⅢ 結末へ進む ー

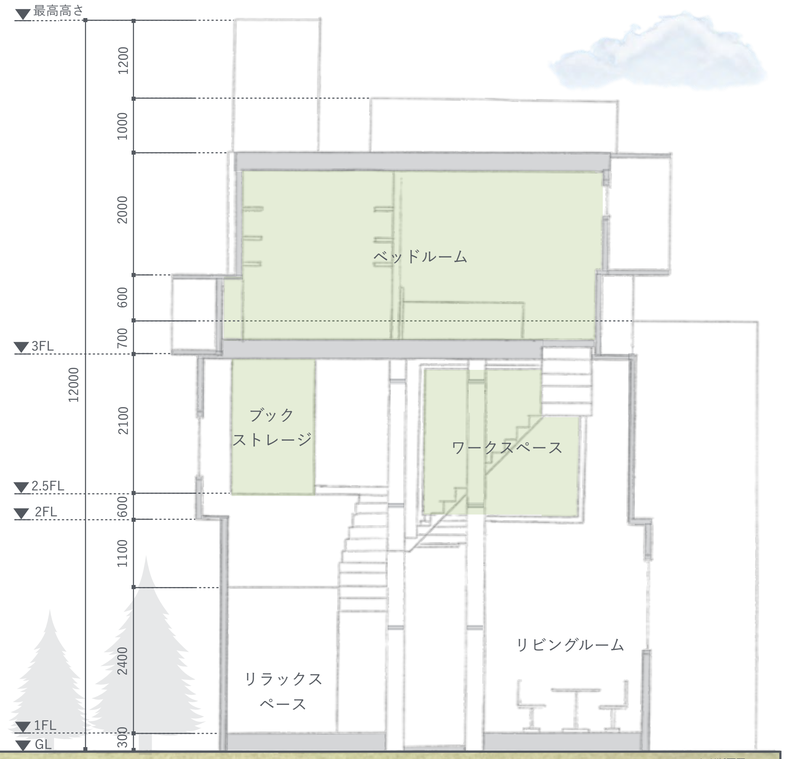


廊下を減らし、階段で空間を繋ぐことで、それぞれの空間の役割を明白にしている。物語を歩み、それぞれの結末へ進んで行く。暗く閉鎖的な空間は、スリルを味わったり、誰にも見られたくない姿でいることに浸る。明るく開放的な空間は、家族団らんの時間を過ごしたり、陽だまりでくつろぎ、穏やかな気持ちに浸る。

ー 断面図 ー



B-B'断面図

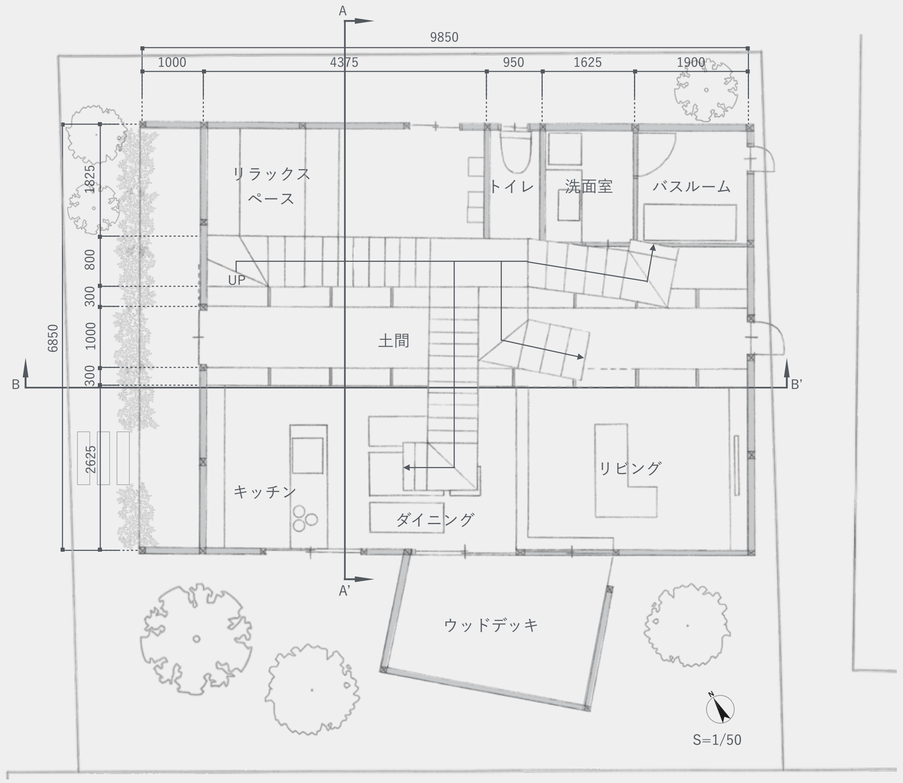


A-A'断面図
S=1/50

ー 立面図 ー

東立面図　南立面図　北立面図　西立面図
S=1/150

ー 配置図兼１F平面図 ー

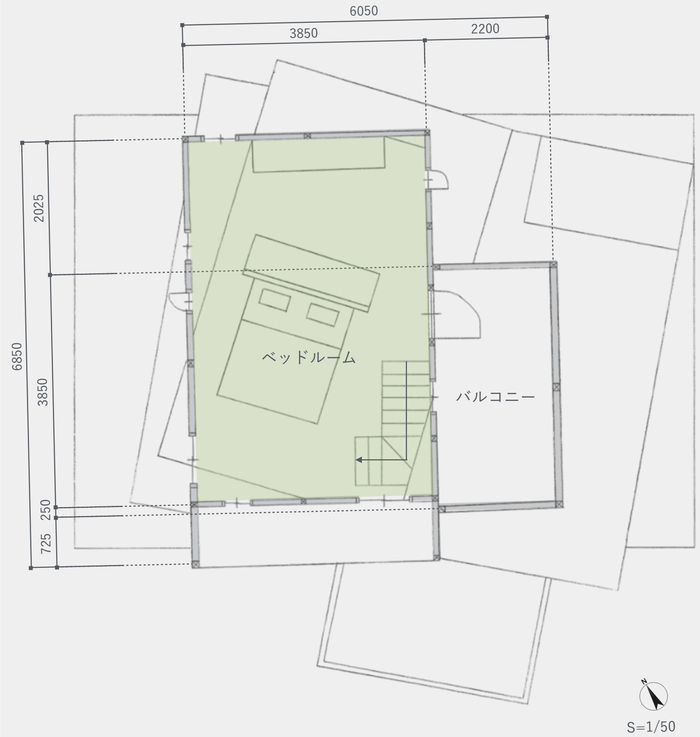
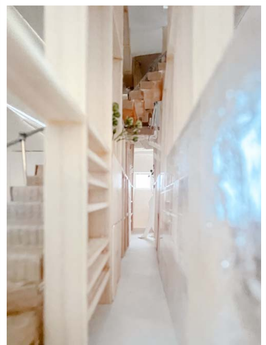


玄関から真っ直ぐに続く空間には、天井までのびる格子を設置。左右に広がる暗がりと明るみの境界をぼかす役割を果たしている。リビングは土間のようなつくりにし、外と内を接続する役割になっている。1番陽が差し込むダイニングは、デッキと繋げ陽だまりの中で家族団欒の時間が過ごせるよう、吹き抜けを生かし開放感を追求した。階段横にはリラックススペースを設け、多様な居場所の選択肢を提案する。

ー 2F/2.5F平面図 ー

ワークスペースは室内側壁面に開口を設けることで、柔らかい自然光が差し込み、外の景色とつながる。作業の間も閉塞感を感じさせない、抜け感のある空間。一息つきたい時には、部屋の淵に座ることもできる。1番暗い空間で、他の部屋には無い落ち着きと静けさを感じることができる。ブックストレージ。高い位置に窓を設け、淡い光が差し込むつくりになっている。本に囲まれた部屋で思う存分本を読み、そのまま眠る第2のベットルームとして使用できる。

ー 3F平面図 ー



2つのBOXが生み出す面は寝る前に本を読んだり、ふと考え事をできる。一方窪みは、衣類や雑貨の収納場所として活用できる。明暗のグラデーションの中間地点として、暖かい光と影が作る暗がりが存在している。その日1日の出来事、物語に浸りまた次の日もこの空間で浸る。いずれここはリセットの場となる。